



6月23日（木）に鍍金組合講堂にて6月例会を開催しました。今回は「ろ過機の正しい選定、使い方」として、株式会社三進製作所 営業本部 河野一道様にご講演いただきました。

はじめに、ろ過の歴史とろ過の概要について、なぜろ過が必要なのか、めっき液中の不純物がめっき製品にどのような悪影響を及ぼすか、わかりやすく説明していただきました。具体的には光沢の低下、ざらつきの発生、密着性の低下などが発生し、めっき品質の低下や不良率上昇の原因となり、生産コスト上昇につながってしまいます。

次に 様々なろ材とろ過方法・ろ材の選定では、ろ布式、プレコート式ろ布式、カートリッジ式などあり、液量、液温、操作性、コスト、清澄度を確認してラインに合ったろ材とろ過機を選択するのが重要になると説明していただきました。それぞれにメリット、デメリットがあるので、それ以外にも仕事量、品質要求、めっきする素材など含めて総合的に判断するのがいいと思いました。



次に、ろ過機の設置と配管では、ろ過機は液面よりも高く設置し、設置出来ない場合には空気抜きを設置し、液がサイホン現象で流れ出ないようにするのが何より重要なことで、入口配管と出口配管は、出来るだけ上に節置し、液が上手に循環できるように設置するのがよく、出来るのであればオーバーフロー槽にしておく、きれいに循環できてろ過効率が一番いいそうです。

最後に、ろ過機のトラブルとしては、ろ布の破れ、カートリッジの固定不足、プレコートパッキンの破れなどがあると、すぐにろ過精度の低下、液漏れが起これば生産コストの上昇につながるため日々のメンテナンスが重要になると説明がありました。ろ過出来ないのが一番問題となるので、ろ布、カートリッジをはめる時は2回ぐらい確認したほうがいいと思いました。

この後、質疑応答が行われ6月の例会は終了しました。

現場に直結することなので、みな真剣に聞いていたのがとても印象に残りました。